

「小児期の成人病危険因子の効果的検出方法の 開発に関する研究」の総括

原 田 研 介

要約：本研究班では、高齢化時代を控え成人病の予防を幼児期より開始するために家族、環境要因等の危険因子の関係、およびスクリーニングにおける有効な検査法の確立を小児成人病予防の観点で検討した。

見出し語：小児成人病，成人病危険因子，肥満児，小児基準値，食習慣，保育環境，高コレステロール血症，高血圧，小児予防検診システム

分担研究者の原田研介は高度肥満の発生と誘因に関する検討と題して、肥満は家族歴を有する例に疾病罹患や過食の励行，社会的要因などの誘因が加わって発生し，高度肥満児では乳児期より肥満を呈するものが多く，また合併症を有しやすく予防の必要性があること，また，板橋区の3歳・5歳の肥満の分布と5歳から3歳への肥満の経過についての後方視的研究にては，3歳肥満児の約半数は5歳児にも改善されていたが肥満度+20%以上では改善の割合は低く，男児では増悪傾向が著しかったこと，5歳児にも肥満の新規発現があり，男児において傾向が強かったことを報告した。

研究協力者の河合 忠は小児期の臨床検査の基

準値に関する研究と題して、小児の基準値の作成に関し日本臨床化学会小児臨床化学委員会からの「小児の基準範囲設定法勧告法試案」の要旨と「小児基準値研究班」の活動状況を報告した。

研究協力者の坂本元子は食物摂取状況調査票（食習慣調査票）の開発とその活用と題して、摂取食品群量の給食に占める割合の算出，調理法による塩分摂取の検討をおこない，より実際的な摂取量に近い食習慣調査票に改良しその活用結果とし肥満では乳類，飯類の摂取が有意に多く，果物，魚類の摂取も多い傾向がみられたことを報告した。

研究協力者の青木純一郎は小学校低中学年の体力(health-related fitness) および24時間心拍数が

らみた日常生活における運動強度と題して、健康に関する体力を評価し全身持久力および筋力／筋持久力が発育に伴い良くなること、調査対象児において高い心拍数を維持できる運動時間が確保されていないこと、体力テストで体力の優れた群で110拍/分以上の心拍数の出現率が高い傾向にあったことを報告した。

研究協力者の大木師磋生は幼稚園児の生活状況調査の考察と題して、幼稚園児と保育園児を比較して保育園児ではカウプ指数18以上の子どもが多く、活発な児が多いこと、家庭環境、食生活の相違があることを確認し両者に体格ならびに生活環境に大きな差があることを報告した。

研究協力者の加藤裕久は保育園児・幼稚園児の肥満と高脂血症スクリーニングに関する研究(Karatsu Study)と題して、園児に肥満、高脂血症のいることを確認し、子どもの肥満と母親の体重、肥満度との相関を認め肥満指導に母親に対する教育の重要性と、また、吸光度法によるコレステロールの簡易測定の有用性について報告した。また、小児血清コレステロール・スクリーニング法の問題点；浜田市児童生徒の動脈硬化危険因子調査からと題して、測定の精度管理の必要性、universal screeningにおける高コレステロール血症の頻度は高いこと、targeted screeningでのハイリスク群の抽出率が悪いこと、高LDLコレステロールの選別に血清コレステロールのcut off 値は

200 mg/dlが妥当であることを報告した。

研究協力者の堺 薫は乳幼児の血圧に関する研究と題して、血圧値は高血圧の家族歴を濃厚に有する群は乳幼児期より高く将来本態性高血圧症に至る可能性を、身体発育に伴い生理的に血圧は上昇することから肥満幼児で血圧が高めであることは一部生理的である可能性を、また、幼児でも血圧は冬期では高いことを指摘し季節も重要な因子であることを報告した。

研究協力者の山内邦昭は東京多摩市における小児成人病予防検診の成績と、同一人2年間の追跡結果の検討と題して、(財)日本学校保健会・若年性成人病対策委員会の小児成人病予防検診システムの検討を行い肥満や高コレステロールの頻度が高いこと、医療レベルでの対応が必要と考えられる高血圧、糖尿病、高脂血症児が発見されていることを明らかとし、追跡結果では重い管理の必要な児童は減少し、この背景に小児成人病予防検診の有用性を示唆すると報告した。

研究協力者の藪内百治は学校における成人病検診に関する検討と題して、同じ中学の10年前の検診と比較して総コレステロールは男女ともに上昇がみられたこと、肥満生徒の比率の増加、肥満度-10%以下のやせの生徒の頻度が多いこと、野菜の摂取不足の傾向が目だったことを指摘し小児成人病対策の必要性を報告した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本研究班では,高齢化時代を控え成人病の予防を幼児期より開始するために家族,環境要因等の危険因子の関係,およびスクリーニングにおける有効な検査法の確立を小児成人病予防の観点で検討した。